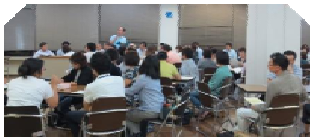


グループワーク

講演を聞いた感想・もっと知りたいこと
今、私たちの取り組んでいること

など



以前にも話題になりましたが、
ご家族やご本人の思いを何度も
聞いて、確認しながら、看取って
いってられる...
そんな丁寧な関わりを、ここでも知
ることができました。

- ・スタッフだけでなく、他の利用者と一緒に看取ることができた。以前は地域との関わりもあった。
- ・GHでは、他の利用者が混乱するのではないかと不安もあったが、意外と自然に受け入れられていた。
- ・エンディングノート作成の、いつするのか、看取りについて、施設の環境によっても家族など関わる人数も限られてくるのかな。
- ・施設スタッフの中には経験がない人も、経験を積むことも大事。
- ・看取りの選択肢、今後の予測を家族に伝えていくことが大切。
- ・本人の意思確認。タイミング含め、どうやって確認をするのか、できるのか。
- ・施設では、夜間が不安。経験が必要。
- ・施設の場合、家族がほとんどい距離感で関わることで、安心感も大きい。
- ・たびたびの真実確認や、覚悟が必要。
- ・家族の覚悟もあるが、スタッフの覚悟も大切。亡くなるという体験があまりない場合は特に覚悟をもつことが必要。
- ・元氣なうちから意向を聞けるといい。
- ・でも、「死」や「最期」はふたい、怖い話題。ハードルが高い。

- ・看取りをしていない施設の原因は、医師との連携が取れていない、夜間の対応が難しい、ケアワーカー、看護師など職員間で死に関する考え方が異なるなどなど...
- ・看取りを対応している施設でも、もちろん不安はあるが、経験することで日常のケアの見直しができる。
- ・終末期を体験している家族が少ないので、どうやって向き合ってもらうか。家族も巻き込んで看取りをしていく必要がある。
- ・エンディングノートのタイミング、高齢者の場合、死生観を持っている場合が多い。難しいが、かわりの中聞いていく。

>同意・看取り計画立案について教えて！

- ・医療処置がないと医師より説明があった時点で、家族と話し合いをする。
- ・家族へまず相談。食事がとれない、脱水症状がでてきているなどの段階で、スタッフを交えて話し合い、双方が同意、書面に残す。
- ・計画書はケアワーカー。担当職員がついて計画を立案する。
- ・計画はチームで考える。訪問看護師も担当に加わってもらっている。

>家族の宿泊まりするスペースは？

- ・限りはあるが、確保できている。人数の制限はない。
- ・ホールなどを使用してもらっている。

>その他、こんな工夫を！

- ・訪問看護をうまく利用するとよい。GH、特養も利用できる。日常の観察をしてもらい、いざというときは医師がいくようにできれば対応しやすいのではないかな。
- ・病院では最期を迎えられない時期がくることを心に留めておくことが必要。



自己紹介タイム



テーブルごとに前に出て、
所属とお名前を言って
いただいています。



研究会開始直後、研修会やイベントの案内の時間を取っています。
皆さんに知ってもらいたい！ということがありましたら、事務局までご連絡ください。



定例は、

開催日：奇数月の原則第2火曜日（変更あり）

18:30～20:30（時間厳守）

次回は...11月12日（火）18:30～20:30

テーマ：地域医療支援センターの役割と活動内容

会場：彦根市立病院 医療情報センター

申込み不要、当日会場へお越しください

連絡先：ことう地域チームケア研究会事務局（湖東健康福祉事務所）

TEL:0749-22-1770

こんなこと、思いました！

話題提供に関して、

「参考になった点」「もう少し聞いてみたい点」「報告したい点」など 

- ・施設での看取りについて情報不足でした。上手くいかなかったケースの紹介も参考になるかと思いました。
【行政等】
- ・施設の看取りについて行っているところ、していないところ、その理由について詳しく聞けてよかった。
- ・お疲れ様でした。ありがとうございました。
- ・職員への死について、看取りについて、どのような勉強会をしているのか具体的に知りたい。
【医療関係者】
- ・看取りについては大変難しい問題であると毎回感じます。家族の認識、覚悟も必要。
在宅と施設の看取りの違い。各サービス、職員、スタッフ間の同じ思い、考え、知識等の共有が大事。
- ・施設での看取りの難しさを知ることができた。(承諾書、同意書、申請書が必要なこと、経験がないと難しいなど) 今後、看取りを行う場所が在宅だけでなく、施設が増していくと思われる。
【医療関係者】
- ・在宅、施設、どちらにおいても信頼関係が大切なことが改めて思った。
【福祉関係者】
- ・グループホーム、特老での看取りが実際行っていた事が嬉しく思いました。
看取りを行う上で、医療処置(吸引、褥瘡)が必要になった場合どう対応しているのか。
【福祉関係者】
- ・いつも遅い時間にしか参加できずすみません。それでも参加したいと思います。
- ・有難うございました。
【福祉関係者】
- ・看取りにあたって契約書を取りかわし、契約書にも有効期限がある事を知った。
全施設の中での看取りの実績と今後はどのような方針をもっているのかGH以外での看取りでの事例を聞いてみたい。
【福祉関係者】
- ・施設 在宅 HPをよりシームレスに連携する事により、一人一人の生き方をよりしっかりと支える事ができる。研修での顔の見える関係はまず第一歩という印象である。
【福祉関係者】
- ・具体的な内容を皆にお知らせ頂くと参考になります。契約書、同意書、評価表、運用マニュアル。この地域特有のサービス等の内容等 は看取りまでOK。開業医 、 はどこまでOKかマニュアルができれば良い。
【医療関係者】
- ・GHの普段の生活、家族として生きている実感が伝わってきました。
【福祉関係者】
- ・再度、GHで「看取り」についてスタッフミーティングが必要だと考えました。
【福祉関係者】
- ・看取りのために、普通のケアよりも特別にされているケアがあればもう少しきいてみたかったです。
【医療関係者】
- ・1つのテーマに多職種で話し合うことは実りが多いと感じた

今後、研究会で聞きたい内容やテーマをお聞かせください

- ・訪問歯科医について

【福祉関係者】



ことう地域チームケア研究会では、研究会の開催状況や、次回のご案内をメールでお知らせします。ご希望の方は、事務局(湖東健康福祉事務所)まで、

メールアドレス

ご所属

お名前 を、お知らせください。

FAX 0749-26-7540

